

2018年度 大学自己点検・評価(教育学研究科)自己点検・評価総括用シート 1

＜教育学研究科の教育研究目標の進捗状況＞

| 教育研究目標(タイトル) | | 評価指標 | 評価尺度 | 進捗状況 |
|--------------|--|---|--|---------------------------------------|
| 目標1 | 「子ども理解」をもとに、人間形成上の諸問題に向き合う教育と研究の推進 | 前期課程および後期課程入学者数(定員充足率)の確保 | A: 70%以上 B: 60%以上70%未満 C: 50%以上60%未満 D: 50%未満 | 2018年度目標値 A |
| | | | | 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) A |
| 目標2 | 現状の教育現場や教育環境上の問題を学問的に探究し論理的に表現できる研究者の育成 | ①入学者数の定員に対する割合 ②学内外の研究支援制度に応募する学生数 ③前期課程から後期課程への進学者 | A: ①1/2②2③2 B: ①1/3②1③1 C: ①1/4②1③1 D: ①1/5②0③0 | 2018年度目標値 B |
| | | | | 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) C |
| 目標3 | 奉仕的なリーダーシップを発揮することのできるような研究マインドを有する高度な実践者の育成 | ①高度教育コースの入学者数(あるいは定員充足率) ②本研究科の教育・研究に対する保育・教育現場の協力機関数 | A: ①1/2②2 B: ①1/3②1 C: ①1/4②0 D: ①1/5②0 | 2018年度目標値 B |
| | | | | 2018年度自己点検・評価後(2018年度帳票提出時点) A |

<2016～2018年度の自己点検・評価の取組み総括>

総括1 <3年間の取組みによって改善したこと、向上したこと>

本研究科は2009年に開設されたが、当初は臨床教育コース、幼児教育コース、初等教育コースからなる3コース制でスタートした。しかし、教育の更なる充実と目標の達成を目指して、2017年度より領域を乳幼児教育領域と共生教育領域の2つにまとめ、学生の目指す将来の目標の違いによる研究者養成コースと高度教育コースの2コース制を組み合わせた組織に改編された。その結果、学生は前期課程の1年生のときから、将来を見据えた心構えで講義に臨み、あるいは研究に励むことができるようになった。

また、前期課程から後期課程への進学者数も増える傾向にあり、これも改組のプラスの効果ではないかと考えられるが、今後もしばらく見守っていく必要がある。

評価専門委員・所見記入欄:**■総括1について**

- ・ 博士後期課程への進学者確保は全学的な課題ですが、教育学研究科において増加傾向にあることは注目に値します。今後も継続されることを期待しています。(B)
- ・ 2コース制導入の効果が上がったことが伝わってきます。(C)
- ・ 学修者のニーズに合わせたコース設定により、進学者数増の傾向が出ていることはPDCAサイクルが機能している表れであり、評価できます。(D)
- ・ 教育研究目標1, 3の項目が上方修正されていることは学部としてしっかりとした取り組みがなされていると評価します。前期課程から後期課程への進学者の微増はどこの研究科でも望まれていることですが、改組の好影響であるならば今後もよい傾向が続くと考えられますので継続調査が望まれます。(E)
- ・ 教育研究目標で設定した定員充足率等の評価指標に関して、目標値を達成しており、確実な進捗が確認できます。引き続き研究科としての自律的・積極的な改善への取組みが期待されます。(F)
- ・ 目標を超える進捗を示した項目については、取り組みを評価するとともに、目標に達することができなかった項目については、引き続き取り組みの充実を期待します。(G)
- ・ 引き続き PDCA サイクルを機能させることで、更なる伸展につながることを期待します。(H)